

# 経済同友 12,1

December 2013, January 2014  
No.763

## Contents

■2014年 代表幹事年頭見解 新たな飛躍への挑戦	02
■特集 経済三団体 新年祝賀パーティー 合同記者会見	04
■Doyukai Report ベンチャー創造フォーラム 「成長戦略実現に向けて、わが国に 『ベンチャー生態系』を生み出す」	09
第4回「One Company, One Athlete」 「トップ・アスリートのための 支援・雇用に向けた企業説明会」	13
被災地出張授業 「働くということ —社会で求められる力とは—」	17
小枝 至 元副代表幹事(日産自動車 相談役名誉会長)	
被災地出張授業 「観光立国への道」	19
星野 佳路 観光立国推進PT 委員長(星野リゾート 代表)	
経済同友会特別協力 「東北未来創造イニシアティブ 人材育成道場 本格稼働」	21
キャロライン・B・ケネディ 在日米国大使来訪	25
■Column 巻頭言 御立 尚資 「新知識、新世代」	01
リレートーク 濱岡 洋一郎 「長く続けていること」	23
コペンハーゲン通信 「生活保護制度に新ルール!」	24
私の思い出写真館 早川 洋 「リスク・リターンの考えを たたき込まれた英銀研修」	26
2014年度 正副代表幹事・専務理事 推薦候補者の内定について	08
新入会員紹介	25

今月の表紙:世界の文様シリーズ

### 【スウェーデン・バラ模様】

よく見かけるこの柄は、オーテブラッド・ローズといわれ、200年の歴史があります。刺繍のクロスステッチでよく用いられます。

## 巻頭言

副代表幹事  
医療・福祉改革委員会 委員長  
改革推進プラットフォーム「日本版NIH」のあり方検討PT 座長  
**御立 尚資**  
ポストンコンサルティンググループ  
日本代表



## 「新知識、新世代」

1871(明治4)年12月23日、岩倉使節団が、欧米先進諸国から学ぶ旅に向けて横浜港を出発した。その旅は1年9カ月も続いた。使節団には、留学生43人も同行しており、うち5人の女性の中で最年少の津田梅子は当時6歳にすぎなかった。明治維新期のリーダーたちが、いかに「新潮流の学び」と「人づくり」を重視していたかを思い知らされるエピソードである。

さて、これからの日本社会とビジネスにとって、「学ぶべき潮流」とは何だろうか。

いくつもの答えがあり得るが、「世界の多極化」、そして、いわゆる「ビッグデータ」の二つは、多くの方が上位に挙げられる項目ではなかろうか。

紀元1年から19世紀初頭までの間、中国とインドは、世界のGDPのうち合計5割前後を占めていた。農業革命後の一人当たりGDPは、大多数の国でほぼ現在と同様の400ドル程度に収斂し、人口大国たる両国が自動的に経済大国であったからだ。

今世紀中に地球上の人口はほぼピークを打つ、という見方が主流となつつある。さまざまなアップダウンはあろうが、中国、インドが、米国と並んで、経済・外交等さまざまな領域で「極」の一つとなっていくことは間違いないだろう。日本にとっての地政学的な難しさが増すことになるとともに、都市化進展、サステナビリティ問題の今まで以上の顕在化などと合わさって、われわれに大きな影響を与え続ける要因となるだろう。

情報技術の進展とネットワーク化の勢いもすさまじい。情報をプロセッシングし、やりとりするコストが劇的に低下した。同時に、個人の発する情報、センサーを通じて収集される機械や社会システムからの情報などなどデジタル情報の量が、有史以来のアナログ情報量を既に大きく上回り、さらに増加中である。こうした背景のもと、大量のデータをほぼリアルタイムで解析し、価値につなげることが可能となってきた。われわれは、いわゆる「ビッグデータ」がビジネスのみならず、社会システムも大きく変化させていく「とば口」に立っていると言えよう。

維新期の先達と同様、現代日本の経営者も、日本の社会と自らのビジネスに重要な「学ぶべき潮流」を意志を持って選択し、その領域の知見・肌感覚を持つ「人づくり」への投資をしていかねばならない。将来に向けて、「誰に、何を、どう学ばせるか」。この問いに明確な答えを出すべく、努めていきたいと考えている。